

- カワウを通して野生生物と人との共存を考える(その7) -

カラーリングによる標識と参加型調査について考える

責任者氏名： 高木憲太郎（バードリサーチ）

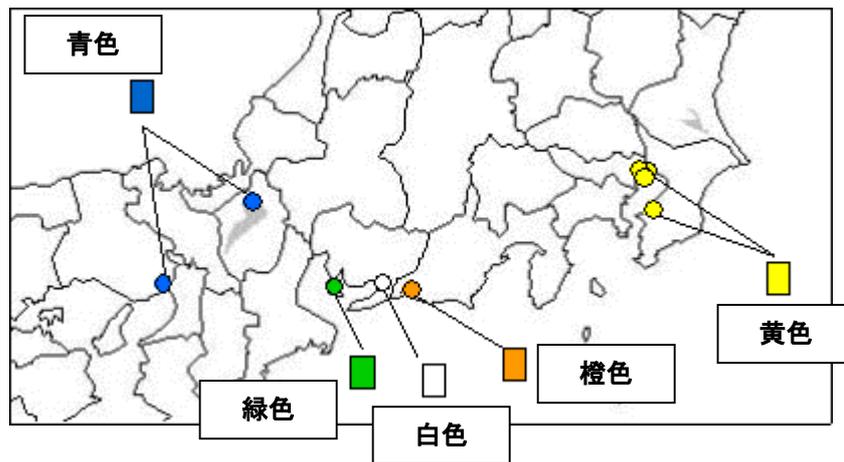
共同企画者： 石田朗（愛知県農業総合試験場），須川恒（龍谷大学深草学舎），
福田道雄（東京都葛西臨海水族園）

カワウの標識調査は，関東や東海のほか，近畿地区でも滋賀県びわ町の竹生島と兵庫県伊丹市の昆陽池のコロニーで行なわれています。これは，環境省鳥類標識調査用金属リングと一緒にプラスチックの板を加工して作ったカラーリングを巣立ち直前のヒナに装着するというものです。

しかし，リングを装着するだけではこの調査は成り立ちません。リングを装着した個体を観察・回収することによって，カワウが生まれた場所からどこへ移動していくのか，いつ繁殖を始めるのか，どれくらい生きるのかなどを調べる手がかりができます。そこで，カワウに標識したカラーリングからより多くの情報を得るためには，野外でカワウを観察する調査者と，情報を収集して公開するシステムの両方がうまく繋がっている必要があります。カワウは漁業被害などの軋轢の問題が起きている鳥ですので，移動や繁殖年齢，寿命などを調べることは，カワウの保護管理について考える上でも重要なデータになります。

この自由集会では，関東・東海の標識の様子を聞きながら，近畿地区などの課題を含め，カラーリングによる標識と参加型調査について考えたいと思います。

- 演題：**
- 1．カワウの標識調査の概要
 - 2．標識調査の事例紹介
 - 3．カラーリング情報の収集と公開のシステム
 - 4．総合討論



図．カワウの標識調査が行なわれている場所と，カラーリングの色．
カワウ標識調査グループのホームページより

なお，カワウの標識調査については，下記のホームページをご覧ください。

- ・カワウ標識調査グループ (<http://www6.ocn.ne.jp/~cring973/index.html>)
- ・大阪鳥類研究グループ (<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/OBSG/OBSG.html>)
- ・愛知県カワウ標識調査グループ (<http://www6.ocn.ne.jp/~akawau/>)